

備える。

準備。予備。整備。技術。守備。警備。
そなえる…用難する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…したく、用意。警戒。防制
備品。設備。備蓄。備置。備忘。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!

no. **17**

かわさき
防災広報紙

昭和61年1月1日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



新年おめでとうございます。

ことしも、

お正月のおせち料理はいかがでしたか。
おせち料理と防災—ちよつと関係ないように思われ
ますが、実はおせち料理も保存食の一つで、昔から、手
間をかけずに、お正月の間食べられるよう工夫され
ています。もちろん、おせち料理をそのまま非常用の
食料に、というわけにはいきませんが、ふだんから、毎
日使っているものを利用しながら、身近な防災への備
えをいろいろ工夫するよう、心がけたいものです。

備える。



ところで、あなたのご家庭の非常持出品は、どこ
にありますか。「たしか買ったはず」「あそこに置い
たはず」—非常用カンパンや缶詰を買ったまま
押し入れの奥にしまい込んでいませんか。災害に
備えて、食料や水、燃料を3日分ぐらい、ふだん
から準備しておく必要があります。
お正月—わが家の「御用始め」は、まず、非常用品
の点検と準備から。

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

いつも、備える

非常用品

使ったら、足す

食べもの

非常食というと、カンパンや缶詰が、すぐに思い浮かびます。もちろん、最適品の一つですが、非常食に入れたままにしておく必要はありません。使ったら買い足すようにしていれば、有効期限や量を気にすることもありません。

水

1人1日、3リットルの水が必要で、断水の場合、水の缶詰などだけでは不足です。川崎市では、臨時給水栓（No.14参照）などで飲料水を確保する計画ですが、各家庭でも、3日分程度の水を蓄えて置くことが必要です。

くみ置きは、清潔な容器に、口いっぱいまで水を入れ、しっかりとふたをして日陰に置いておき、定期的に入れ替えましょう。

▼缶詰は、くだもの類なども
▼ナッツ、あめなどの嗜好品も

それに冷蔵庫。停電にならなければよいですが、停電や倒れたらすると、中ものが予想以上に早く悪くなりますので、過信は禁物です。

非常持出品

食料、飲料水をはじめとして、ラジオ、懐中電灯、手袋、医薬品など（イラスト参照）。

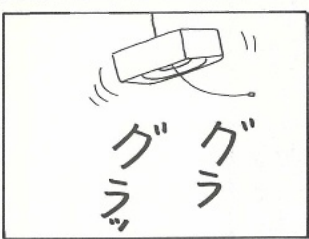
アンケートによると、市内の7割の人が、非常持出品を準備していると答えています。

しかし、実際に中ものを、確かめてみたり、使ってみたり、災害時専用などと考えずに、キャンプなど（キャンプ用品はいろいろ役立ちます）を利用して

みましよう。そして、実際にわが家では、どんなものが一番必要かを考え、使ってしまったものや足りないものを補充して

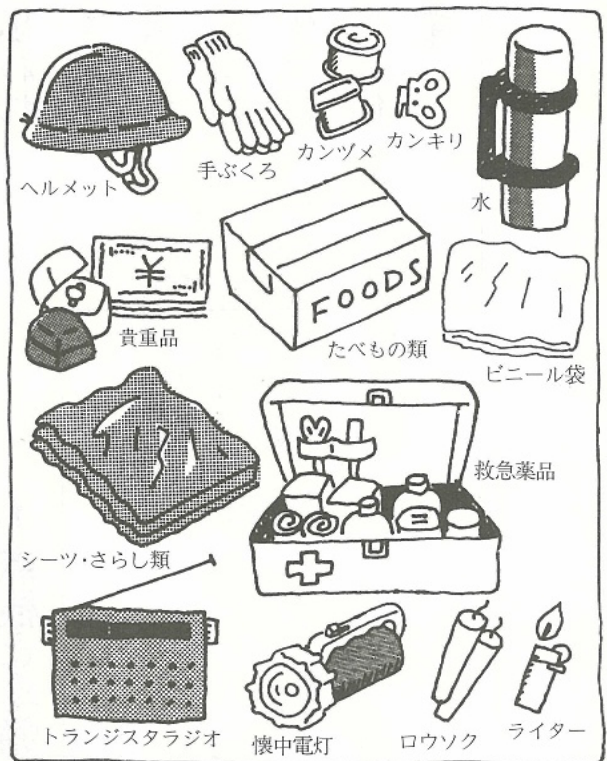
お願 宮城県沖地震のとき仙台市民が買いためたものは電池、懐中電灯、ロウソク、パン、缶詰など

赤ちゃん、お年寄り、病人用品も大切。これも、面倒と考えずに、大地震を予想して、あるものを利用して使え、使ったら足しておくよう、ふだんから、心がけま



身の回りの安全レッスン

非常持出品



使ったら、足しておく。

お願

あなたは、防災についてどんな工夫を、ふだんからなさっていますか？ぜひ、教えて下さい。また、災害に関するあなたの体験談も寄せください。

連絡先 川崎市土木局防災対策室

〒210 川崎区宮本町1-200・2111内線2841



あなたの地震対策は?

南部防災センターは、市の最東南部に位置し、耐震性と耐火性を重視して設計されたピラミッド形の4階建ての建物で、通年24時間勤務態勢で、災害に備えている施設です。災害時は、地区避難場所における応急対策活動の拠点として、市民のみなさんに情報を提供したり、被災者の収容、医療救護ならびに給食・給水など備蓄物資の提供に

よる救援活動を行います。また、平常時は、市民のみなさんが災害に的確に対応できるよう、正しい防災知識を習得できる場所となっています。ぜひ一度、ご見学されてはいかがでしょうか。●ご利用・ご見学のお問い合わせは 川崎区小田7-3-1 川崎市南部防災センター ☎=355-2175 交通=国鉄川崎駅東口9番バス乗り場 臨港バス 富士電機行 「小田小学校前」下車 徒歩6分

体験談 その17

「震度V-78宮城県沖地震体験記集」から 仙台市提供

万の備え

仙台市立六郷中学校二年(当時) 有川佳子さん

分からないものだネ

それから二、三分たった頃でしょうか。急にまたグラグラと来たのです。「あれれ? また地震だ。でもさっきより大きいような...」そう思いながら、地震のおさまるのを待っていたら、ドーンという音がして、よりいっそう揺れが激しくなり、もう居てもたってもいられなくなり、「逃げなくては...」と思い、急いで玄関まで行き、鳥かごを持って外に飛び出しました。私が外に出た時は、歩くのもやっとなで、立っていられなくて、母も庭にしゃがんでいました。そして目にした光景は、二重、三重といくつも重なった、ぶれた写真の様な様子。電柱も曲がって見えませんでした。弟は、「近くで建て前のおもちゃがあるから拾ってくるね。」と出ていたので、私が呼びにいくと、中腰で走ってくるのが見えたので、「まず安心。ようやく地震がおさまって、家の中に入ってみると、もうめちゃくちゃになっていて、どこからかたづけていいものか分からぬくらいでした。冷蔵庫は倒れ、上に上げていたものは落ちる、食器、ガラス類も大分こわれ、ピアノまで、三十センチ以上動き、たんす、本などは、ひっくり返って電灯まで、落ちたのです。その地震直後電話が来ました。ガラスの破へんだらけになっていたので、電話の所へ行くまで、もたいへんでした。それは、出張先の父からの電話で、「くれぐれも気をつけるように。物は買えても命は買えないから」とのことでした。その後は、混線して、通じませんでした。

「地震は経験してみないと、

六郷地区の市内に行く途中の道路は、ガードレールが下に落ちて、

「地震は経験してみないと、分からないものだネ」とため息をつきながら、言っていました。この事を通して思ったことは、地震は天災でどうすることもできないけれども、ある程度の地震予知ができるというナリと思えます。それに、「備えあれば憂いなし」とことわざにもあるように、日頃の備えが必要だと思いました。私の家では、静岡にいた頃の習慣で、万の備えをしていたので、今回は助かりました。例えば、懐中電灯、食品缶詰類、軍手、お金をひとまとめにしておいたことです。その他、今回は水の缶詰も売って、たらいの...と思いましたが、それから、家で決めた避難場所に避難してみんな無事であったことはとても良かったです。最後に地震に会った時はあわてず、冷静な判断をとる心得も大切に...と思います。